



古民家だより

No. 1

平成30年10月18日(木)
越谷市教育委員会生涯学習課

いくつかの台風が同じようなコースで列島を通過していきました。被害はありませんでしたか？

さて、この度越谷市公式ホームページに「古民家だより」を掲載することになりました。市内の二つの“中村家住宅”でのことを中心に、市域の歴史や文化財に関する話題を市民の皆様へ発信していこうと思います。よろしくお願いいたします。

オーストリアの学生から見た古民家

9月21日の午後、文教大学国際交流室の引率で、オーストリアの大学院生二人が旧東方村（レイクタウン）と大間野の両中村家住宅を訪れました。身長2m近い男性Aさんと小柄で物静かな女性Lさんです。二人とも日本語が堪能でした。母国語でも日本文化の知識を得ることはできますが、やはり深い理解のためにはその民族の言語でこそと思うと、二人の努力には頭が下がります。

日本文化専攻の理由

二人になぜ日本文化を専攻したのか尋ねてみました。次のように答えてくれました。

- ・Aさん：日本のアニメを見て興味を持ちました。特にジブリの作品。
- ・Lさん：日本の伝統文化、エキゾチックなところに関心があります。

ジブリ作品は制作のための取材も丁寧に行われていて、とても深い内容ですね。地球環境のこと、強権による支配と社会の底辺で生きる人々の生活、少数民族の魂などが垣間見えます。

“エキゾチック（異国情緒）”というのは、日本のどんな点について特に感じているのか、時間があれば聞きたいところでした。私たちが外国についてエキゾチックと感じることの相違を知りたかったです。

「じゅうきょし部屋の種類、住居址が違う」

ヨーロッパの家屋と異なると二人が感じたのは部屋の種類、とりわけ区別の仕方だったようです。その一つは“土間”です。キッチンでもあるけれど、仕事場でもあるという点です。

もう一つは“接待空間”、すなわち住人が普段は使わない、領主の家臣を通す部屋＝行政末端の部屋があるという点でした。

また旧東方村中村家住宅の昔を伝える展示室を訪れた時に見田方遺跡の住居址(写真)を見て、「ヨーロッパと違う」と言うので、施設職員が「ヨーロッパは石造りの家ですが、日本では木を主体とした植物で作られているので、住居址はほとんどが床の面だけです。」と、かまど跡や柱穴を指しながら説明すると、二人とも納得したようでした。



竪穴住居跡（見田方遺跡）



古代ローマ遺跡（ウィーンの王宮前広場）

アニメで見た“あれ”がそこに

それは2つの民具でした。一つ目は旧東方村中村家住宅の“蚊帳”です。Aさんは「となりのトトロ」見たということで、すぐにわかったようです。Lさんはトトロのぬいぐるみを作ったと言っていました。

二つ目は大間野町旧中村家住宅の“算盤”です。「『ラピュタ』の海賊のお婆さんが使っていた計算機だよ」と言うのと、二人とも直ぐにわかりました。

今回のオーストリアの大学院生の二人と話した数時間は、とても楽しいひと時でした。

日本の再認識にも繋がる

オーストリアは現地のドイツ語では「オスト（エスト）ライヒ」と言い、『東の国』という意味です。かつてのフランク王国の東端にあったからだそうです。さらにその東には異民族、異教徒の国がありました。16世紀前半と17世紀後半にはオスマン帝国の攻撃を受け、ウィーンが包囲されました。その100年後でも、モーツァルトの「トルコ行進曲」などのようにその影響が現れていました。

ゲルマン系の文化のほか、ラテン系やアジア系文化の影響を受けているこの国で育った人の目には、日本文化はどのように映っているのでしょうか。こういう機会がもっとあるといいですね。それは互いの文化を理解し合うだけでなく、自国の文化を再認識することにもなると思うからです。古民家を保存していく理由の一つがここにあるように思います。

様々な視点でご覧いただきました

第2回市制施行60周年記念展示

越谷市制施行60周年を記念して企画された市立図書館での写真展の第2回目が終わりました。今回は市域で撮られた昭和30年代の写真と同地点同角度で撮った最近の写真を比べたものでした。お寄せいただいたご感想の中からいくつかご紹介いたします。

★20年近くこの土地で暮らしてきたにもかかわらず、初めて知ったことが多くありました。残っている写真が少なく寂しく感じました。誰もが写真を撮れる時代だからこそ、風景を大切にしたいですね。（20歳代）

高度経済成長の頃、各家庭では（一人一人ではなく）やっとカメラを1台持つようになりました。勿論フィルムカメラです。修学旅行の時など、高価なフィルムを何本も使えないので、旅程の中のどこで何枚とるかの予定を立てて臨んだ方もおられるでしょう。

この方は1960年代には当然生まれていません。けれども、フィルムカメラの時代よりふんだんに多くの人が撮れる今の時代（社会状況）を踏まえた上での、想像力のある言葉です。自分が生活しているこの土地を大事にしたいという想いが伝わってきます。便利になったことのプラス面とマイナス面の両方を考える大切さを、この方の文から思われます。

あるお店が60年前と同じ場所に今もあることに感動している方もいらっしゃいました。市域の中には明治35年(1902)発行の「埼玉県営業便覧」に載っている商店で現在も同じ場所で営業されている商店があります。また、大正時代に文芸誌を発行し、以降90年以上も営業されている書店もあります。

また、「おばあちゃんの昔のお家が写っている」「おばあちゃんにもこの写真を見せたかった」とのコメントには、“おばあちゃん”の娘さん、お孫さん、曾孫さんがそろって観てくださったご家族の温かさに溢れていました。

ここに紹介したものの以外にもたくさんありました。年代によって様々ですが、ご覧になった方々がそれぞれに以前と今の繋がりを感じ、さらにそれを大切にしたいというお気持ちが伝わってきました。ありがとうございました。

★写真の貴重さを改めて感じました。初代の市長さんをよく知る人から政治家らしい市長だったと聞き、1958年を心に刻み、これからも市民として誇れるよう。自分に!!（70歳代）

★60年を隔てた定点撮影、貴重過ぎて神の領域だ。（50歳代）

様々な人生の波を越えてこられた方の言葉ですね。越谷の歴史とご自分の歩みを重ねあわせ、矜持をもって生きようとされているお姿。きっと後に続く若者たちもその背中を先達としていくと思います。

★子供と一緒に見させていただきました。親子共に写真に食い入るように見てしまいました。（40歳代）

★だいぶかわって田んぼだったところがどうろになったり いろいろなへんかがありました。（9歳以下）

★川などがいまとくらべると とてもかわってました。（9歳以下）

親子の間にどんな言葉が交わされたのか想像してしまいました。小学2年生のお子さんが“変化”に気づき注目した姿にも、このお母様は目を細められたのではないのでしょうか。その気づきから疑問も生まれることでしょうか。その答えは今は見えなくても、ある時期に何かと繋がって甦るかもしれません。

「^{わら}藁」について考えてみませんか

現代では藁を使ったものが見られなくなってきました。今でも藁は私たちの生活に大切なものです。このようなことを考え、ミニ企画展を開催しています。

・日時:平成30年10/20(土)、21(日)

9:00~16:30

・場所:旧東方村中村家住宅

「レイクタウンエコウィーク2018」の展示です。